



地震・津波に関する防災教室

6月16日（金）に気仙沼市危機管理課防災安全係の藤本さんと坪井さんにおいでいただき、全校を対象とした防災教室を行いました。今回は地震と津波に関するお話をしていただきました。

お話の中では、地震・津波のメカニズムや地震・津波が起こったときの対処の仕方など、クイズを交えながら子供たちが分かりやすいように、スライドを使ってお話していただきました。地震や津波は、いつどこで起こるのかを前もって詳しく知ることはできません。だから、いつ起きても対処できるように、防災袋や家具の固定など、事前の準備が大切であるとのことでした。また、ブロックの模型を使って、固いブロックが少しの揺れで簡単に崩れてしまう実験から、ブロック塀や石垣などが崩れてくることがあると教わり、登下校の際の道路の歩き方にも注意が必要であることを学びました。

3年生以上は、これから総合的な学習の時間の中で、防災について調べていくことになっています。災害が起きたときに「自分の身は自分で守る」ために、御家庭でもお子さんと一緒にできることを普段から準備しておくとうよいと思います。

雨のため、津波を想定した高台への避難訓練が延期となりました。日程を調整し、行う予定です。

災害に対して普段からできること

1. 防災袋の準備
(季節に応じて衣服などを見直す必要がある)
2. 家の点検
(倒れてくる家具はないか、固定されているか)
3. 家族との話し合い
(避難場所の確認、通学路に応じて、1つでなく2、3カ所決めておくとうよい)

身を守るためにやるとよいこと

1. 天気予報を見る
(自然の変化に敏感になっておく)
2. 防災袋の準備と保管場所の確認
(どこにあるか把握しておく)
3. 危険を感じたら、素早く避難する意識
(揺れを感じたら「頭を守って屈む」など反射的に行動する)



【地震の仕組みについて学ぶ様子】



【頭の守り方を実際に比較する様子】